

企業名： 株式会社チノー

レポート名： チノーレポート 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

株式会社チノーの企業理念は「計測・制御・監視技術の限界に挑戦し、産業の発展とより良い明日の社会の実現に貢献する」ことであり、レポートのトップメッセージでは「新たな価値の創出を追求し、社会的課題の解決に貢献する企業であり続ける」としている。このレポート内ではサステナビリティへの貢献がとても強調されており、チノーにとってサステナビリティ推進が社会的課題であり、これを解決することがより良い社会の実現に貢献することだと位置付けていると読み取れる。実際このレポートの4分の1ほどはサステナビリティ・環境に関する内容であり、特にサステナビリティ・環境がチノーにとっての重要課題であるとわかる。ここから、チノーはサステナビリティ課題に社会で対処していく際の中心的な存在を目指していると考えた。しかし、これはレポート全体を読んだ上でなんとなく感じたことであり、チノーが目指している将来の姿というのはこのレポートから理解することは難しいと思った。初めは企業理念が、チノーが目指している将来の姿だと考えたが、企業理念に掲げている「計測・制御・監視技術の限界に挑戦」という部分に関して企業理念以外の部分ではあまり読み取ることができなかった。それに対し、サステナビリティに関してはレポート全体に記述があったため、企業理念とサステナビリティのどちらが目指している姿なのかとても混乱した。結局、レポート全体を通して強調している「サステナビリティ課題への対処」をチノーが目指している将来の姿だと理解したが、いまだに何を目指しているのかをはっきり理解することはできていない。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

このレポートからはチノーの現在の競争優位性は理解するのが難しいと思った。価値創造プロセスのページの中でチノーの計測・制御・監視技術に関する記述はあったものの、単に紹介するだけや抽象的なものが多く、具体的にそれはどんな技術で、またそれが競合他社に対してどのような優位性を持つのかについての記述は見つけることができなかった。レポートの内容は同社がサステナビリティにどのように対処しているかにおおむね終始しており、肝心の同社の事業や技術が企業価値にどのような意味を持つかに関してはあまり触れられていなかった。同社にしかできないことや同社しか持たない価値という、競争優位性につながる部分を見つけることができなかったため、このレポートからは同社の競争優位性は理解できないと判断する。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

前の項で述べたようにこのレポートからはチノールの競争優位性は読み取ることができなかった。したがってこの項ではチノールの技術・事業に持続性があるかどうかについて述べたいと思う。チノールは中期経営計画 2026 というものを公表しており、その中で今後の経営戦略の全体像が示されている。この経営計画では持続的な成長軌道の構築と中長期的な企業価値の向上、脱炭素社会づくりへの貢献に向けて「成長分野のさらなる開拓・拡大」、「コア事業の高度化と価値創造」、「海外事業の基盤強化と拡大」、「経営基盤の強靱化」を4つの基本戦略として掲げている。この基本戦略はやや具体性に欠けると感じたものの、おおむね納得できる内容であり、持続的な成長に向けた取り組みは行なっていると思う。ただ2026年の先を見据えた際に持続的な成長が行えているかについては確信して判断することはできなかった。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

チノールは従業員に対する基本的な考え方として、従業員の健康、能力、経験やイノベーションへの意欲を含めた「人的資本」が新たな価値創造の源泉であり、教育研修の充実やダイバーシティ&インクルージョンの促進、働きやすい環境整備の推進などを通じてプロフェッショナル人材の育成に取り組んでいるとしている。ただ、実際にどのような研修を行っており、それによってどんな価値を向上させることができるかについては具体的な記述はなく、この「研修」によって自分の人的資本の価値向上を達成できるとは断言できない。また、レポートにおける実際の事業やそれによって得ることのできる経験に関しての内容が希薄である以上、実際に仕事をしていく中で人的資本の価値向上を達成できるとも断言することはできない。ただ、社会的課題に対して積極的に取り組んでいることはとても強調されており、また実際に行っていることも具体的に書かれているため、社会的課題に強く興味のある人はその方面での人的資本の価値向上を達成できるかもしれない。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

まずよかった点だが、同社の社会的課題に対する積極的な取り組みがとてもよく伝わってきた。レポート全体を通してサステナビリティへの取り組みが多く組み込まれており、同社のサステナビリティへの意欲はとても伝わった。次に改善すべきだと感じた点を述べたいと思う。まずこのレポート全体を読んで感じたのは構成が分かりづらく、全体として何を伝えたいのかがわからないということだ。まず、真っ先に読むであろう最初の部分が取締役社長による4ページにもわたるメッセージで構成されている。しかも文字は小さく図表などは使われていないため、社長のメッセージを本当に読みたいという人以外はレポート全体を読む興味が削がれてしまう。また、業績や事業・製品紹介に入るまでも社員座談会という6ページにもわたって小さな文字だけで構成されるコーナーが挟まれており、分かりやすさや読みやすさという点において大きく劣っていると感じた。また、本当に伝えるべき

点が伝えきれていないと感じた。同社がサステナビリティへの取り組みに注力していることは素晴らしいことだとは思いますが、サステナビリティに関する内容を強調しすぎており、伝えるべきである企業の説明や業績についての内容が疎かになっていると感じた。特に業績に関してはデータがグラフとして記載されているのみであり、どうしてそのような業績になりどのような対策をしていくのかについては全く記載がなかった。また企業の説明に関しても読む人が少なくなっていくだろう後半に配置されており、本当に伝えるべき優先順位を測り間違えていると感じた。特に飲食メーカーなどと違い、計測機器メーカーというのは世間の認知度は低く、特に事業・企業の説明をするべきだと思うのでレポートの最初の方に配置するべきだと思った。以上のように構成や内容面で大きく改善すべき点があり、これが改善されればより企業の魅力が伝わる報告書になると思う。